

## 第3章

# 取り組みの展開

本計画の実施にあたっては、この地域に暮らす一人ひとり、自治会や民生委員・児童委員をはじめ、地域の各種団体、ボランティア、当事者・家族、社会福祉協議会が連携、協力して推進する必要があります。第3章の取り組みの展開では、12の活動目標ごとに、現状や課題をふまえたうえで、「一人ひとりの住民」や「地域」、「社会福祉協議会」の役割を活動項目として明記しました。

### 12の活動目標

- 1 困りごとに気づき、受けとめよう
- 2 人や家族・地域へのやさしさを育もう
- 3 みんなに知ってもらおう
- 4 とともに活動する担い手をつくろう
- 5 地域でつながろう
- 6 つながりの輪を広げよう
- 7 お互いさまと言える地域にしよう
- 8 災害時にも助け合おう
- 9 安心して生活できる仕組みをつくろう
- 10 一人ひとりの権利を守り、活躍できる社会にしよう
- 11 お互いを認め合い、誰もが生きやすい社会にしよう
- 12 制度の狭間や深刻な地域の課題に対してチャレンジしよう



**活動目標** 困りごとに気づき、受けとめよう

活動項目 ニーズ発見の仕組みづくり

## 活動目標と活動項目

地域の「困りごと」を「誰か」が受けとめるように、意識啓発や仕組みづくりに取り組みます。  
また、地域住民や団体、関係機関等の活動状況を把握し、身近なところで相談できる環境づくりに取り組みます。

平成27年度以降、今州市社会福祉協議会での相談受付件数は年々増加していますが（下図）、相談に当たっていない困りごとが地域に存在していることが考えられます。

「どこに困っている人がいるのか」から「いつ、どこで、誰が困っているのか」を把握することが必要」等と感じている方が地域には多くいらっしゃいます。

人や地域に関心のない人の動きの遅い状態についても、日々の活動や仕度活動等で地域住民の方からお聞きすることが多くあります。

図1 今州市社会福祉協議会 各年度での相談受付件数  
(※委託事業等の相談件数は除く)

年度	相談受付件数
平成26年度	400
平成27年度	450
平成28年度	480
平成29年度	545

資料：今州市社会福祉協議会 地域福祉課

「相談」は特別なことではなく、一人ひとりの生活場の中に機会があることや、地域に出向き、積極的に生活の困りごとを把握する（アウトリーチ）ことを目標から意識していく必要もあります。

**活動項目** ニーズ発見の仕組みづくり

**一人ひとりができること**

- ① 自頃からご近所同士のあいさつやコミュニケーションを積極的に取りましょう。
- ② 困った時は、ひとりで悩まず、身近な人に相談しましょう。
- ③ 相談を受けたら、まずはその人の思いを受けとめましょう。
- ④ 相談の内容に応じて、民生児童委員等の相談活動に寄り添っている人や専門機関につなぎましょう。

**地域で取り組みたいこと**

- ① サロンや学習会等の人が集まる場を設け、生活の困りごとを受けとめる環境をつくります。
- ② 宅配サービス等の既存の活動に「お話し」をプラスし、身近な困りごとをいち早く発見しましょう。

**社会福祉協議会の取り組み**

- ① アウトリーチ隊を組織し、訪問・見守り活動を行います。
- ② 関係団体や市民団体と連携し、相談活動の推進を図ります。

## 活動項目ごとの取り組み内容

**一人ひとりができること**

- ① サロン等の身近な集いの場で聞く機会を、丁寧に受けとめましょう。

**地域で取り組みたいこと**

- ① 相談活動に取り組み地域の人や団体の活動状況をみんなで共有しましょう。
- ② 地域の強みを活かして、身近な相談の場づくりに取り組みましょう。

**社会福祉協議会の取り組み**

- ① 社内内部及び地域の人員確保、関係機関と連携し情報共有の体制づくりを進めます。
- ② 地域機関と連携し、必要に応じて相談の場づくりや活動の支援に取り組みます。
- ③ 生活のあらゆる相談を受け、相談内容に応じて関係機関や関係機関等につなぎます。

## 一人ひとりができること

日頃からの隣近所でのあいさつや声かけをはじめ、地域で困っている人へのちょっとした手助け、さりげない見守りは、地域住民しかできない重要な役割と言えます。わたしたちが地域の一員として日常生活の中で、心がけたいことを記載しています。



## 地域で取り組みたいこと

地域の福祉課題や生活のしづらさを抱えている人たちを地域で受けとめ、ともに支え合う「新たな共助」の仕組みが求められています。ボランティアや住民組織、事業者など多様な組織が相互に協力して、取り組みたいことを記載しています。



## 社会福祉協議会の取り組み

社会福祉協議会が地域福祉を推進する団体として、地域住民をはじめ、関係団体や行政機関と連携・協働し、合意形成を図りながら、各目標の実現に向けて重点的に取り組むことを記載しています。



# 活動目標 1 困りごとに気づき、受けとめよう

活動項目1 ニーズ発見の仕組みづくり

活動項目2 相談しやすい環境づくり

地域の中に潜在化している生活の困りごと（ニーズ）をいち早くキャッチできるように、意識啓発や仕組みづくりに取り組みます。

また、地域住民や団体、関係機関等の活動状況を把握し、身近なところで相談できる環境づくりに取り組みます。

## 現状と課題



平成27年度以降、今治市社協各支部での相談受付件数は年々増加していますが（下図）、相談に至っていない困りごとが地域に潜在していることが考えられます。



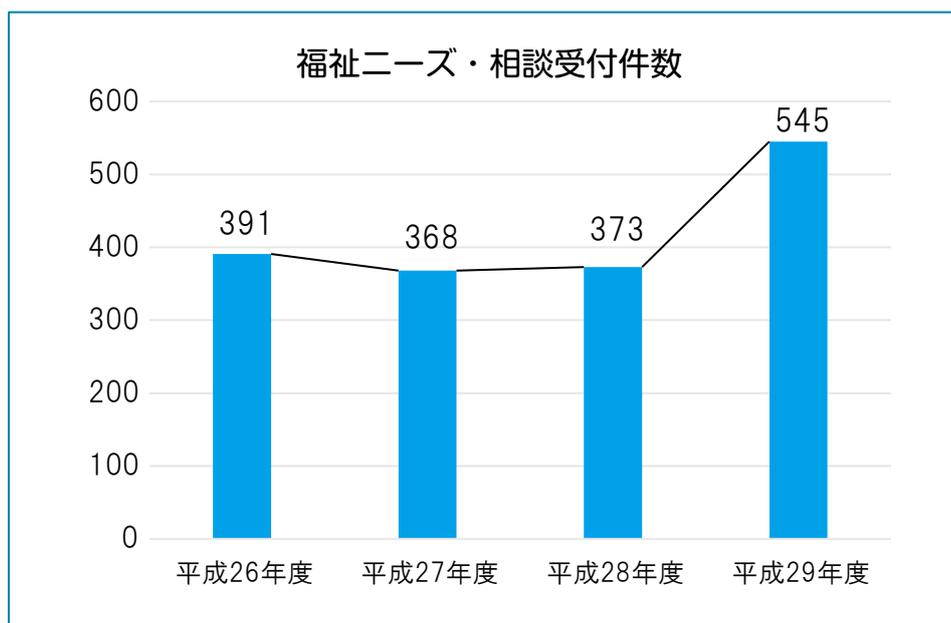
「どこに困っている人がいるのか分からない」、「もっと身近なところに相談できる環境が必要」等と感じている方が地域には多くいらっしゃいます。



人や地域に無関心な人への働きかけの必要性についても、日々の活動や住民座談会等で地域住民の方からお聞きすることが多くあります。

図：今治市社会福祉協議会 各支部での相談受付件数

（※委託事業等の相談件数は除く）



資料：今治市社会福祉協議会 地域福祉課



「相談」は特別なことではなく、一人ひとりの生活場面の中に機会があることや、地域に出向き、積極的に生活の困りごとを把握する（アウトリーチ）ことを日頃から意識していく必要があります。

## 活動項目1 ニーズ発見の仕組みづくり



### 一人ひとりができること

- ①日頃からご近所同士のあいさつやコミュニケーションを積極的にとりましょう。
- ②困った時は、ひとりで悩まず、身近な人に相談しましょう。
- ③相談を受けたら、まずはその人の思いを受けとめましょう。
- ④相談の内容に応じて、民生児童委員等の相談活動に取り組んでいる人や専門機関につなぎましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①サロンや座談会等の人が集まる場を活かし、生活の困りごとを受けとめる環境をつくりましょう。
- ②配食サービス等の既存の活動に「お話」をプラスし、身近な困りごとをいち早く発見しましょう。



### 社会福祉協議会の取り組み

- ①アウトリーチ（地域に出向いていくこと）の姿勢で生活課題を発見し、個別・地域支援に取り組みます。
- ②各団体や人等と連携し、情報共有や支援を基に個人や地域のニーズ把握に取り組みます。

## 活動項目2 相談しやすい環境づくり



### 一人ひとりができること

- ①サロン等の身近な集いの場で聞く困りごとを、丁寧に受けとめましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①相談活動に取り組む地域の人や団体の活動状況をみんなで共有しましょう。
- ②地域の強みを活かしつつ、身近な相談の場づくりに取り組みましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①社協内部及び地域の人や団体、関係機関と協働し情報共有の体制づくりを進めます。
- ②他機関と連携しつつ、必要に応じて相談の場づくりや活動の支援に取り組みます。
- ③生活のあらゆる相談を受け、相談内容に応じて関係部署や関係機関等につなげます。



福祉懇談会

## 活動目標② 人や家族・地域へのやさしさを育もう

活動項目③ 配慮や支援を必要とする方の理解の促進

活動項目④ 家庭・地域・学校と連携した福祉教育の推進

障がい、認知症、介護、虐待、生活困窮など、個人や家庭が抱える生活・福祉課題は、多様かつ深刻化しています。一人ひとりが地域の現状に目を向け、福祉への理解・関心を高めることで、家族はもちろん、住んでいる地域や人を思いやり、ともに生きる力を育む福祉教育を推進していきます。

### 現状と課題



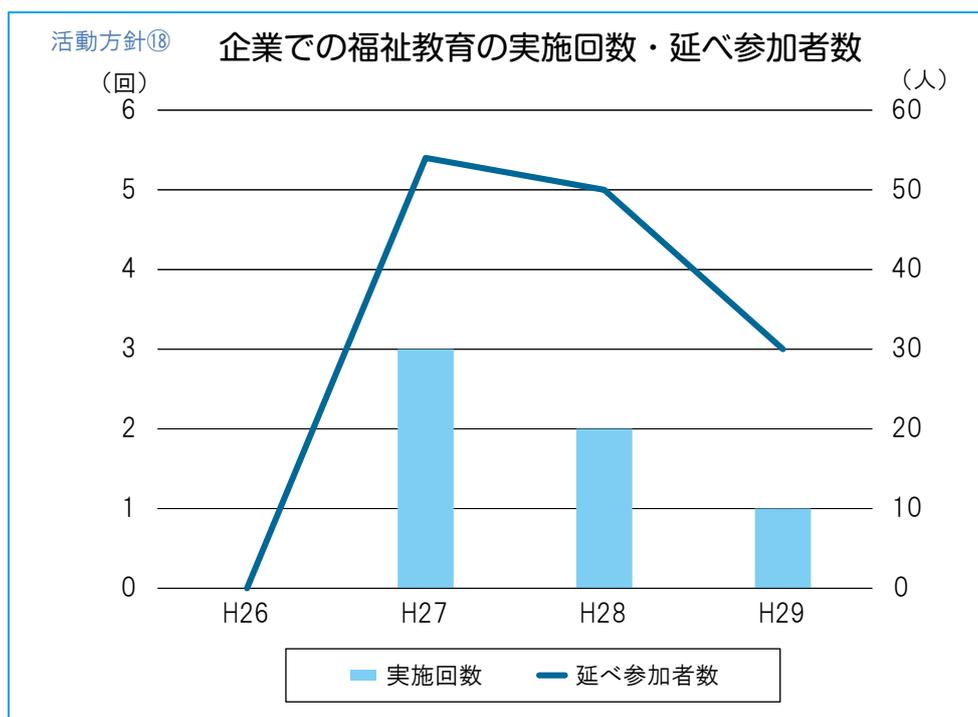
療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者、認知症高齢者数、生活保護の世帯数は年々増加傾向にあります。(今治市統計データより)



「今後、今治市社会福祉協議会が特に力を入れるべき取り組み」の質問で「福祉教育の実施」と回答された方について、40歳代以下の子育て世代の関心は高いものの、50歳代以上の関心が低いことから、福祉教育＝学校教育というイメージが強いことが伺えます。(第3期地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査)



教育機関での福祉教育については、ほぼ今治市全域で実施されています。しかし、企業との連携および地域の風土や文化を活かした福祉教育の実践が少ないため、各地域での推進が求められます。(実績評価(事務局)による活動計画評価)



資料:今治市社会福祉協議会 地域福祉課

## 活動項目3 配慮や支援を必要とする方の理解の促進

### 一人ひとりができること

- ①自分が住んでいる地域や人に関心を持ちましょう。
- ②先入観にとらわれず、その人個人と、置かれている環境を受けとめましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①民生委員・児童委員や専門職、専門機関と連携していきましょう。
- ②配慮や支援を必要とする方への関心や知識を高める機会をつくりましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①地域住民や関係団体、専門機関などと連携し、配慮や支援を必要とする方の現状およびニーズ把握をすすめます。
- ②学習会などを通して、配慮や支援を必要とする方と地域住民との接点をつくります。



精神保健福祉ボランティア講座

## 活動項目4 家庭・地域・学校と連携した福祉教育の推進

### 一人ひとりができること

- ①地域行事や学校行事に積極的に参加しましょう。
- ②福祉教育の学びを家族で共有しましょう。

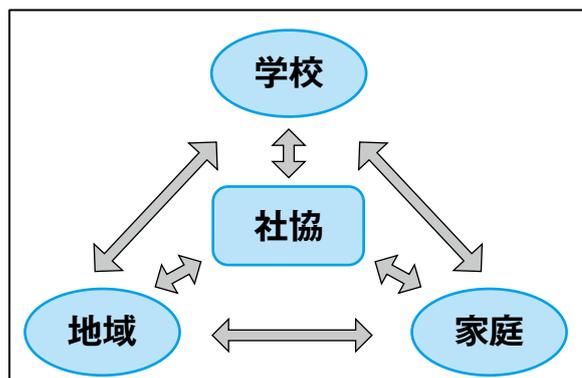


### 地域で取り組みたいこと

- ①地域全体で子どもを守り・育てる福祉教育の実践に向けて、商店や企業などと連携し、積極的な支援・協力を図りましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①社会福祉協議会の強みを活かし、地域の様々な人や団体などの社会資源と学校をつなぐ役割を担います。
- ②地域と子どもがともに学び、地域への愛着を育むプログラムづくりを行います。
- ③福祉教育に携わる地域のサポーターを増やす活動を促進します。



福祉教育の連携のイメージ

## 活動目標 ③ みんなに知ってもらおう

活動項目⑤ 地域のことを考えるきっかけづくり

活動項目⑥ 情報発信の工夫と広報の充実

安心して暮らしていくためには、自分の住んでいる地域を知ることが大切です。知るきっかけがあってこそ、関心を持つことができ、行動につながります。まず日ごろから感じている地域の課題を共有しながら、その解決のための方策や取り組みについて話し合う機会を持つとともに、地域福祉への関心を高めるために、誰でも、いつでも、わかりやすい情報に触れられる環境づくりを進めていきます。

### 現状と課題

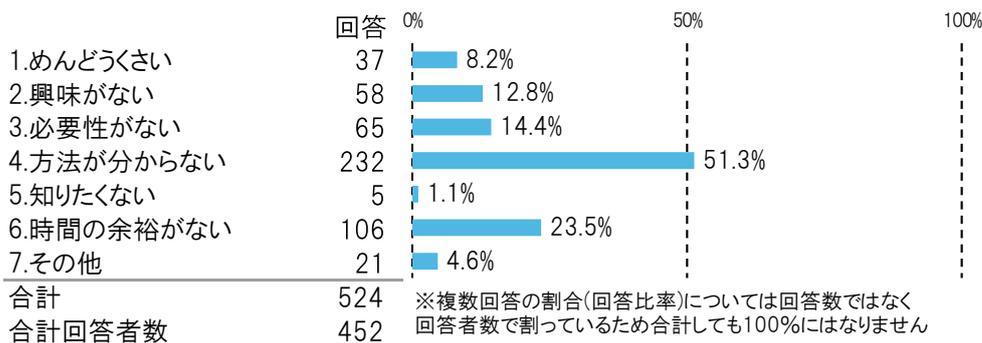


地域の行事や活動に「関わりのない方」や「関心がない方」が多く、無関心層への働きかけが必要になっています。



住民座談会において「住民のみなさんが取り組みたいこと・目標」については、「住民の意識の向上・変化」が19.9%で最も高く、次いで「情報の活用・発信（既存の活動の復活や見直しを含む）」が15.2%となっており、住民が自分たちの住む地域のことを考える機会や知る機会が必要になっています。  
(第3期地域福祉活動計画策定のための住民座談会)

#### 問26 情報を得ることができない理由



第3期地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査



情報を得ることができない方の割合は24.3%で、理由については「方法が分からない」が51.3%と最も高くなっています（第3期地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査）

## 活動項目5 地域のことを考えるきっかけづくり

### 一人ひとりができること

- ①地域の現状・課題に目を向け、話し合う場等に参加していきましょう。
- ②当事者の方との交流等に積極的に参加していきましょう。



住民座談会

### 地域で取り組みたいこと

- ①地域の現状・課題に対して地域でできることを考える機会や話し合う場をつくっていきましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①福祉センターまつり等のイベントを通して、福祉の啓発をすすめていきます。
- ②サロンや老人クラブ等の集まりの場を活用して、地域の現状を伝え、住民自身が地域の問題に関心をもてるきっかけをつくります。
- ③フォーラム・学習会などを開催し、地域について考えるきっかけをつくります。

## 活動項目6 情報発信の工夫と広報の充実

### 一人ひとりができること

- ①これまでの経験や技術を生かして情報発信に協力していきましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①点字・音訳ボランティアなどの活動に参加していきましょう。



### 社会福祉協議会の取り組み

- ①PR動画やSNS・携帯アプリなどの新しい媒体の活用
  - ・手に取って頂けるような広報づくりの検討や社協活動の魅力を伝えられるようPR動画などの作成をすすめていきます。
  - ・SNS、携帯アプリなどの新しい媒体の活用をすすめ、福祉に関心を持ちやすい環境を整えていきます。
- ②福祉情報の拠点・発信
  - ・知りたい情報に応じて、情報が得られるよう拠点を活用していきます。
  - ・既存の活動の中で情報も一緒に届けられるような方法を検討していきます。
- ③情報のバリアフリー化
  - ・関係団体やボランティアグループと協力し、コミュニケーションや情報収集に配慮の必要な方への適切な情報提供を行います。

## 活動目標 4 ともに活動する担い手をつくろう

活動項目7 若い世代への地域活動の継承と地域貢献の機会

活動項目8 子育てを終えた世代や定年退職者の活躍の場づくり

地域の中で若い世代から高齢者世代まで、幅広い世代の人たちが活躍していく場づくりが大切になります。

地域の伝統文化の伝承や地域貢献のきっかけづくり、幅広い世代の人たちが活躍していける場づくりを促進します。

### 現状と課題



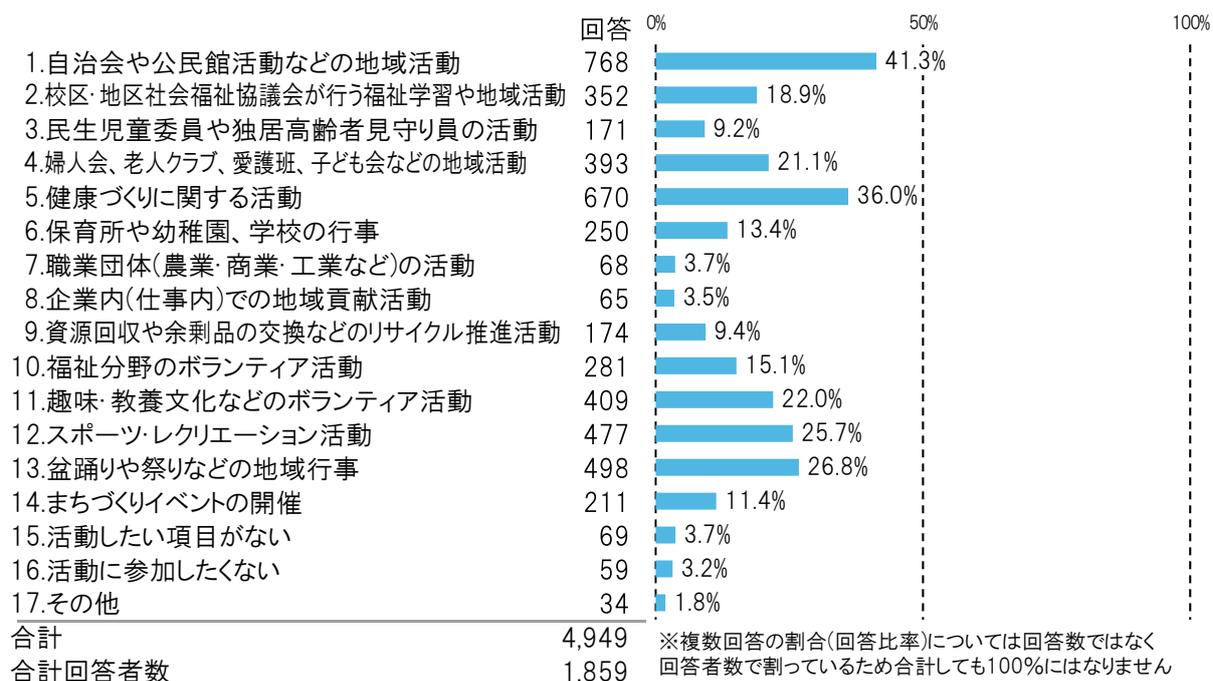
各地域において、担い手の高齢化や後継者不足の問題が深刻化し、新しく地域の活動に協力してもらえる人材の発掘が早急な課題となっています。



子育てを終えた世代や定年退職者が第2の人生として地域の中で輝ける機会を創出することで、地域の活性化にもつながります。



地域活動への関わり方として、自治会や公民館活動などの身近な地域活動や「健康づくりに関する活動」、「盆踊りや祭りなどの地域行事」、「スポーツ・レクリエーション活動」などの割合が多く、参加しやすい活動から地域の担い手づくりにつなげていくことが必要です。



第3期地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査

## 活動項目7 若い世代への地域活動の継承と地域貢献の機会

### 一人ひとりができること

- ①地域活動や地域貢献の機会に参加していきましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①幅広い世代が伝統文化を体験したり、参加できるきっかけづくりをしていきましょう。
- ②若い世代が地域貢献のできる機会をつくっていきましょう。



### 社会福祉協議会の取り組み

- ①高校生を対象とした地域貢献の場と地域との接点の場づくりを行います。
- ②学校や地域団体と協力して、地域の伝統文化や地域活動に触れる取り組みを進めていきます。

## 活動項目8 子育てを終えた世代や定年退職者の活躍の場づくり

### 一人ひとりができること

- ①自身の経験や知識をいかして地域の中での役割を見つけましょう

### 地域で取り組みたいこと

- ①共通の楽しみや特技のある人同士が誘い合って、ともに活動する仲間を増やしていきましょう。



### 社会福祉協議会の取り組み

- ①特技や趣味をいかして活躍できる人材の発掘と活動のきっかけづくり
- ・40代から60代のボランティア登録を促進していきます。
  - ・幅広い世代が地域の担い手として活動できるよう「地域デビュー応援講座」(仮題)を企画・実施し、ともに活動していく担い手の発掘をしていきます。

## 活動目標 5 地域でつながろう

### 活動項目 9 見守り・小地域ネットワークの構築

### 活動項目 10 つどいの場、居場所づくり

近年、少子高齢化により高齢者が増加し、独居高齢者世帯も増えてきています。また、以前の日本にみられた「向こう三軒両隣」という風習も衰退しており、特に高齢者の地域内での孤立・孤独死が社会問題となっています。そこで、地域での孤立を防ぐために、見守り体制の仕組みづくりと、小地域での集いの場づくりを推進していきます。

### 現状と課題



ひとり暮らしの高齢者や障がい者、認知症の人への定期的な見守りや声かけをしてみたいという回答が約 50 %にのぼっており、地域内での支え合いに興味・関心がある方が多いことが分かります。

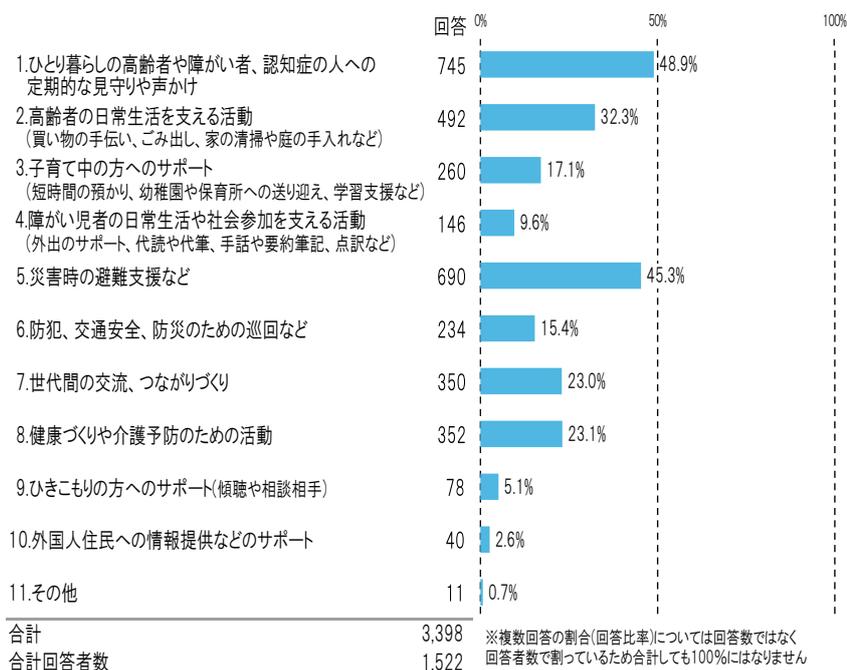


各地域においても、まずは近隣で困りごとを身近で気づき合える関係を築き、小地域内での多世代が連携した見守り・声かけが必要となります。



住民座談会において、支え手側から「安否確認のために回覧板を手渡しにしよう。」「1人暮らしの高齢者の方のために集いの場を推進していこう。」という声上がる一方で、「手助けをしてもらいたいが遠慮をしてしまう」といった、受け手側が声をあげられない現状もあります。

#### (手助けや助け合いの活動に興味があるもの)



## 活動項目9 見守り・小地域ネットワークの構築

### 一人ひとりができること

- ①近隣の方へ興味・関心を持ち、積極的な挨拶やコミュニケーションを心掛けましょう。



### 地域で取り組みたいこと

- ①地域で困りごとを抱えている人を見つけた場合、一人で抱え込まずに専門機関へ相談しましょう。
- ②回覧板を持っていく際に安否確認を意識しながら実施しましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①地域内の様々な担い手と多職種をつなぎ、小地域で話し合う場を作ります。
- ②生活のしづらさを抱えた方を支えていけるような見守りネットワークづくりを推進していきます。

## 活動項目10 つどいの場、居場所づくり

### 一人ひとりができること

- ①つどいの場へ気軽に参加してもらえるような声かけを行いましょう。
- ②つどいの場にお互いさまの関係性を持ちながら、参加しましょう。



### 地域で取り組みたいこと

- ①地域で孤立する人がでないように地域の中で見守りを進めていきましょう。
- ②従来のサロン活動を継続しながら他のサロンとの交流や多世代交流も交えながらサロン活動を行っていきましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①多世代交流型のサロンや子育てサロンなど、地域のニーズに沿ったサロンを推進します。
- ②孤立してしまう人がでないようだれもが気軽に集い、見守り・つながり合える場づくりを行います。

## 活動目標 6 つながりの輪を広げよう

### 活動項目 11 ボランティア・市民活動の活性化

### 活動項目 12 社会福祉法人や企業等の社会貢献活動の推進

市内では様々な主体によるボランティア・市民活動がなされています。既存の活動の充実に加え、新たな活動等の創出を図り、ボランティア・市民活動の活性化を図ります。また、地域住民によるボランティア・市民活動のみでなく、社会福祉法人や企業、NPO等による社会貢献活動も推進します。

### 現状と課題

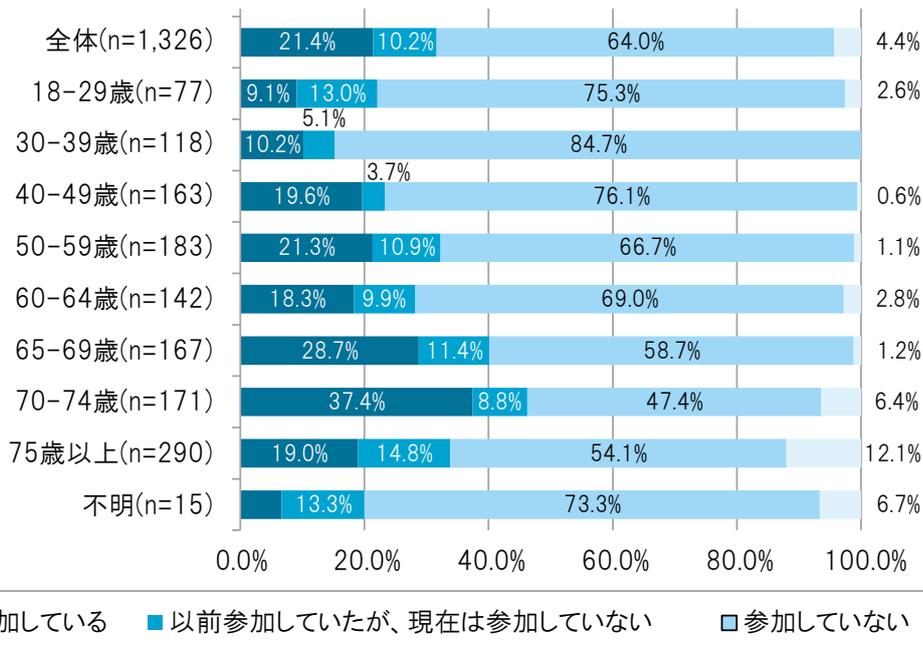


ボランティアなどの参加状況について、全体としては「参加している」が21.4%で、「参加していない」が64.0%となっています。参加していない理由として、「仕事や家事が忙しい」と回答した方が多い結果でしたが、「ボランティアが特別なもの」と考えている方が多いことも理由となっていると考えます。



平成28年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ、「地域における公益的な取組」の実施に関する責務が課され、地域の福祉ニーズ等を踏まえた、多様な地域貢献活動が期待されています。また、企業による社会貢献も今後ますます展開されることが考えられます。

ボランティアなどの参加状況



第2期地域福祉計画策定のためのアンケート調査【問23】



既存の活動を継続・充実していくことと、新たな活動を創出することを推進するために、地域の困りごと（ニーズ）とボランティア・市民活動の現状を把握し、様々な主体が柔軟に地域で活動できるような取り組みが必要です。

## 活動項目11 ボランティア・市民活動の活性化

### 一人ひとりができること

- ①研修や講座等に参加し、特技や趣味、関心を高めましょう。



### 地域で取り組みたいこと

- ①既存の活動の継続・充実に向けて、これまでの取り組みを振り返りましょう。  
②他の活動者との情報・意見交換等を通じて、自身の活動の継続・充実の可能性を探りましょう。

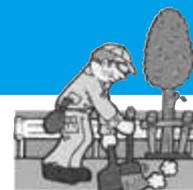
### 社会福祉協議会の取り組み

- ①個人・地域の生活・福祉課題に即した担い手養成に関する研修、講座を開催します。  
②既存の活動を充実させるために、特定の分野で活躍しているボランティア団体（テーマ型）と特定の地域で活動している団体（地縁型）の接点をつくります。  
③ボランティア・市民活動の活動者が交流・情報交換する機会を設け、各活動の充実に図ります。

## 活動項目12 社会福祉法人や企業等の社会貢献活動の推進

### 地域で取り組みたいこと

- ①法人や企業も地域の一員として、地域住民や自治会やボランティアグループ等とつながりましょう。  
②地域の生活課題を把握し、法人や企業の強みを生かして、社会貢献活動に取り組みましょう。



### 社会福祉協議会の取り組み

- ①社会福祉法人の「公益的な取り組み」について市内の社会福祉法人や福祉施設等と研修会等を通して方針を共有します。  
②インフォーマルサービス（制度に基づかない支援）の活用の必要性について関係機関・団体と学ぶ機会を設けます。  
③企業の社会貢献のサポートをします。（社内研修、ボランティア活動とのマッチング等）



## 活動目標 7 お互いさまと言える地域にしよう

### 活動項目 13 近隣の助け合い活動

### 活動項目 14 生きづらさを抱えるご本人・家族を地域で支える活動

少子高齢化や地域のつながりの希薄化が進む中、地域から孤立しがちな人たちを見守り、支え合う地域づくりへの期待が高まっています。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすために、日常生活のちょっとした困りごとを地域の中で支え、住民相互で助け合っているよう、支え合える関係づくりを進めます。

### 現状と課題

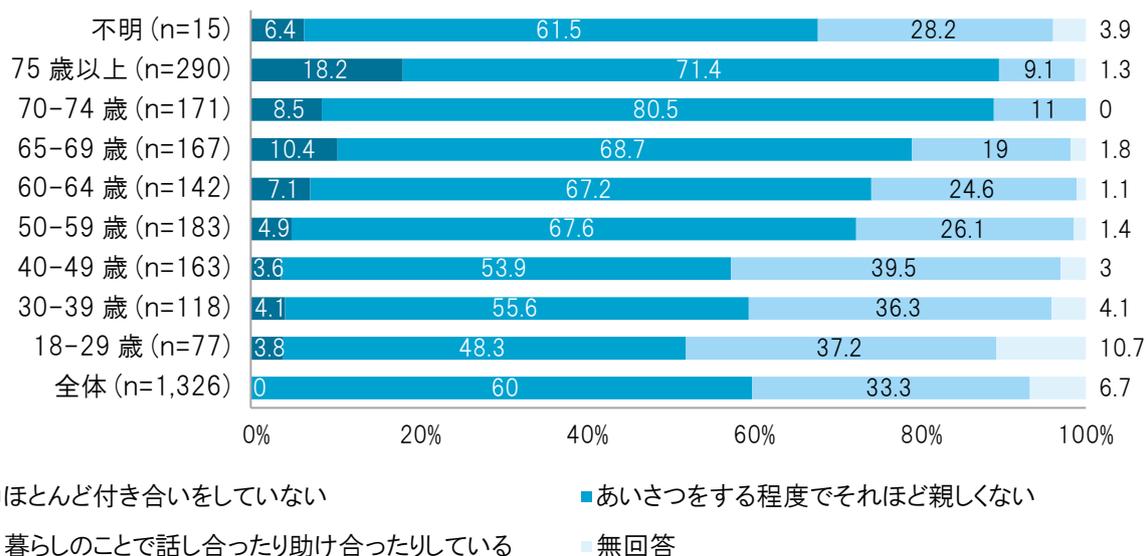


日頃のご近所付き合いについて、図1のアンケート調査結果によると、18～29歳では、「ほとんど付き合いをしていない」が18.2%で、年齢層が低くなるにつれ近所付き合いが少なくなっていることがうかがえます。全体でも、61.5%が「あいさつをする程度でそれほど親しくない」となっています。



「今後、今治市社会福祉協議会が特に力を入れるべき取り組み」については、「地域の見守り、支え合いづくりの推進」を選択した方が35.2%と2番目に多くなっています。(第3期地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査より)

図1：日頃の近所付き合いについて



第2期地域福祉計画策定のためのアンケート調査(今治市福祉政策課)



支え合いづくりを進めていく中で、ちょっとした困りごとをご近所で支え合える仕組みづくりや、生活のしづらさを感じている方の生活背景や価値観などの特性を理解し、その方を取り巻く環境づくり(拠点づくりやネットワークづくり)を推進していく必要があります。

## 活動項目13 近隣の助け合い活動

### 一人ひとりができること

- ①日頃から隣近所で声をかけあい、気軽にコミュニケーションをとりましょう。
- ②「おせっかい」をし合える関係をつくりましょう。
- ③隣近所の異変をいち早く察知し、専門機関につなぎましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①孤立しがちな人を隣近所で見守りましょう。
- ②「お互いさまの気持ち」をもち、近所で支え合い活動を実施しましょう。
- ③ちょっとした子どもの変化に気づきましょう。



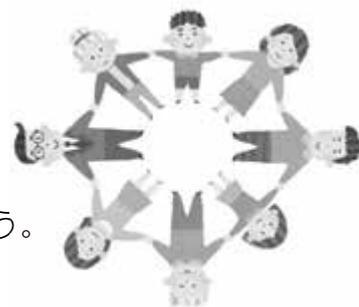
### 社会福祉協議会の取り組み

- ①当事者を中心とした隣近所で見守り、支え合えるグループづくりを推進します。
- ②地域の中で気軽に情報共有できる場を作り、住民同士で支え合えるネットワークづくりに取り組みます。
- ③住民からあがってくる個別ニーズに対し、地域から孤立しないよう関係機関と連携し、迅速に対応できる福祉の土壌づくりを推進します。

## 活動項目14 生きづらさを抱えるご本人・家族を地域で支える活動

### 一人ひとりができること

- ①病気や障がい等により不安や悩みをもっている方に目を向けましょう。
- ②勇気を出して、自分や家族のことを周囲の方に伝えましょう。



### 地域で取り組みたいこと

- ①同じ境遇にある人、家族の方とともに、悩みや不安を話すことができる機会をつくりましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①病気や障がいのある人やその家族、近隣の援助者が集える場をつくります。
- ②生きづらさを理解するため、学習会などを行い、地域の理解者や支援者を増やします。



発達障がいのある方や認知症のご本人や家族のつどい

## 活動目標 8 災害時にも助け合おう

活動項目 15 災害時要配慮者の支援体制づくり

活動項目 16 被災者支援と災害ボランティア活動の体制整備

平成 30年 7月に発生した豪雨災害の被災者（世帯）、被災地域の継続的な支援活動を行っています。また、今後の大規模災害に備え、地域のコミュニティの力をいかした災害時要配慮者の支援体制づくりをすすめるとともに、被災者の多様なニーズに応えるための災害ボランティアの育成、関係団体の連携強化に取り組みます。

### 現状と課題

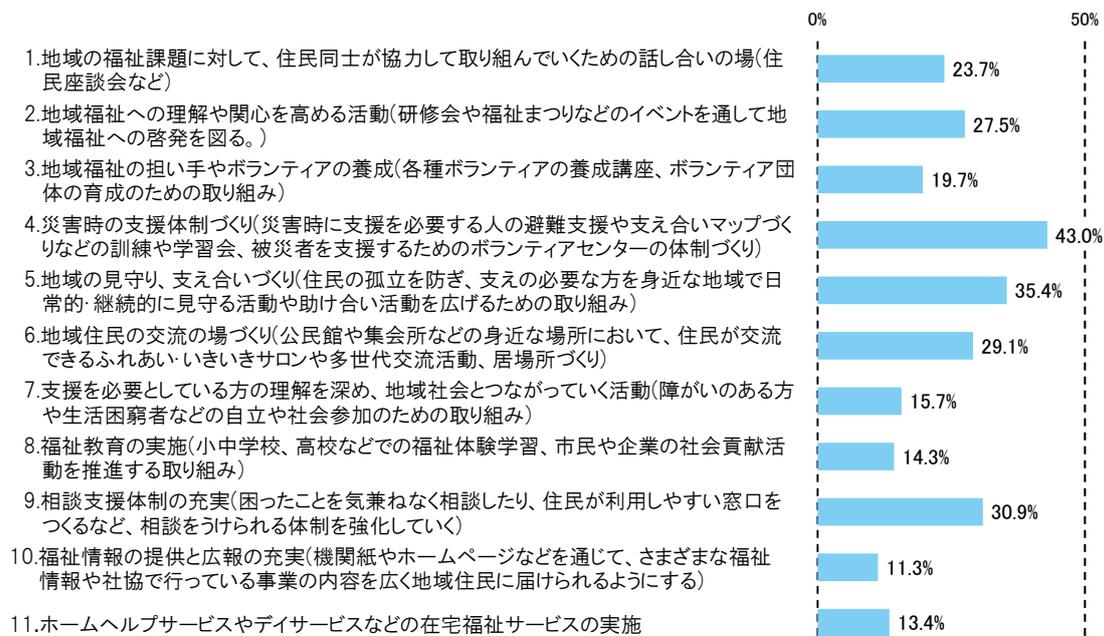


災害時にも配慮が必要な方を地域で把握し、気兼ねなく相談できるような見守りや支えあい活動の充実が求められています。



様々な福祉課題の中でも、災害時の対策や体制づくりへの関心が非常に高く、今治市社会福祉協議会へ緊急時に向けた積極的な取り組みが求められています。

図 2：今後、今治市社会福祉協議会が特に力を入れるべき取り組み



第3期地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査(今治市社会福祉協議会)



地域住民が主体となり、日頃からの顔の見える関係づくりや災害時をイメージした訓練を行っていくことが必要だと感じている方が多いようです。

## 活動項目15 災害時要配慮者の支援体制づくり

### 一人ひとりができること

- ①日頃から隣近所と顔見知りの関係をつくり、地域の防災訓練などに参加しましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①避難行動要支援者を含む災害時の要配慮者を把握しましょう。
- ②避難時および避難生活中的の配慮や支援方法を学ぶ講習会や訓練を行いましょ。



避難行動要支援者台帳を活用した防災訓練

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①災害時要配慮者の支援に関わる担い手を養成するための講座を行います。
- ②地域の関係団体や福祉事業者などと連携し、災害時要配慮者の支援体制づくりを進める話し合いや地域の防災訓練などへの協力を行います。

## 活動項目16 被災者支援と災害ボランティア活動の体制整備

### 一人ひとりができること

- ①災害時は被災者を気遣ったり、被災地域のためにできる活動を行いましょ。

### 地域で取り組みたいこと

- ①平時から地域内外の関係者・団体とつながり、連携を強化しましょ。
- ②災害時は、様々な団体や災害ボランティアセンターなどと連携して、被災者の支援や被災地域の復旧・復興に向けた活動に協力しましょ。



平成30年7月豪雨  
今治市災害ボランティアセンター

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①平成30年7月豪雨災害で被災された方々への継続的な支援を行います。
- ②大規模災害に備え、被災者の支援活動や災害ボランティア活動に関わる団体と連携し、災害支援ネットワーク会議や災害ボランティアセンター運営訓練を行います。
- ③災害ボランティアを育成するための市民向けの講座、啓発活動を行います。

## 活動目標 9 安心して生活できる仕組みをつくろう

活動項目17 生活支援サービス等の開発・拡充

活動項目18 地域福祉活動を支える財源の確保

単身世帯が増加し支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、生活支援の必要性が高まっています。生活のちょっとした困りごとをサポートする多様な助け合い活動の創出とネットワークづくりを進め、生活支援サービス等の開発・拡充を図ります。

また、地域福祉活動や生活支援サービス等の住民の生活課題を解決していく仕組みとして、共同募金等の民間の地域福祉活動を支える募金の理解を図り、効果的に活用していく仕組みへ変化させ、財源の確保に取り組んでいきます。

### 現状と課題



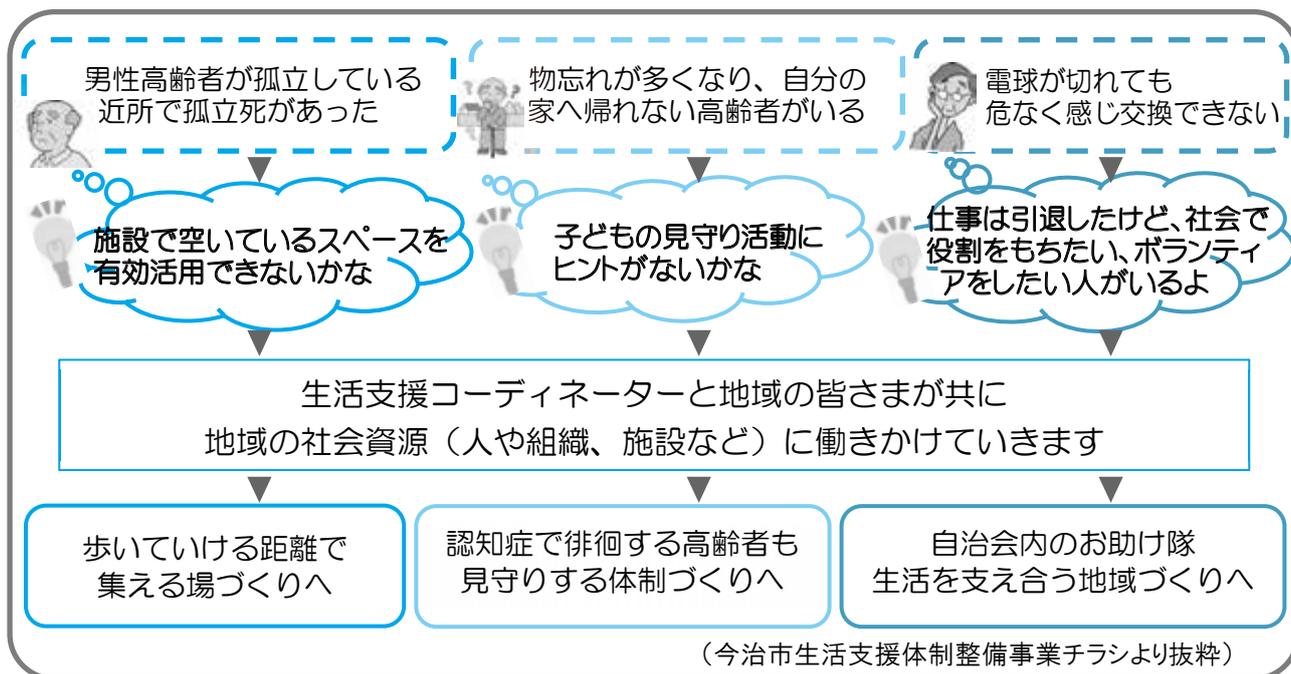
身体機能の低下や軽い認知症状により、ゴミ出しや買い物など生活の一部分のみ困難である高齢者の方が増えています。

例えば…

- ・ゴミを出す場所が遠い
- ・荷物が重くて買い物が大変
- ・リモコンを押しても動かない  
(リモコンの押し間違い)
- ・ゴミ置き場の蓋が重い
- ・時計の電池が交換できない
- ・お墓の掃除ができない
- ・電球の取り換えができない
- ・書類の内容がわからない
- ・窓の上側が拭けないなど



このような困りごとを地域で支える新たな活動や仕組みづくりが必要です



関連：5ページ参照

## 活動項目17 生活支援サービス等の開発・拡充

### 地域で取り組みたいこと

- ①隣近所や友人、ボランティアによる見守りやお手伝い等の互助の支え合いから生活支援をしていきましょう。
- ②買い物の移動販売や電球交換の電気屋等、多様な民間事業者による日常生活を支えるサービスの利用を進め、情報を共有していきましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①高齢者の支え合い活動の担い手を増やします。
- ②地域資源（人・組織・集いの場・民間サービス等）を把握し情報を発信します。
- ③関係者のネットワークや既存の取り組み、組織と協働しながら人と地域と活動をつなぎます。

高齢者の暮らしのちょっとした困り事をお手伝いする、生活支援サポーター『おた助さん』の活動が波方町で始まっています。『おた助さん』はこれまで培った特技などを地域の誰かのために生かしながら「お互いさま」の関係づくりに取り組み、すべての人が心豊かになれることを目指しています。思いやりや温かさを感じる支え合い活動が市内にも広まっていきたいですね。



## 活動項目18 地域福祉活動を支える財源の確保

### 一人ひとりができること

- ①地域福祉活動を支える社協会費や共同募金について理解を深めていきましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①ボランティア団体の取り組みを広く多くの人に知っていただき活動への賛同者を増やしていきましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①地域の方にわかりやすく地域課題や寄付の活用を伝えることで応援者を増やし、寄付額増を目指します。
- ②住民の共感を得ながら寄付と地域福祉活動が循環していく形をつくっていきます。
- ③寄付してくださる企業を開拓し増やしていきます。



## 活動目標 10 一人ひとりの権利を守り、活躍できる社会にしよう

### 活動項目 19 子どもや若者、障がいのある人の自立・社会参加の支援

### 活動項目 20 総合的な権利擁護の推進

生まれ育った環境や障がい等の有無に関係なく、一人ひとりの希望や意思が尊重され、生涯にわたってその人らしく豊かな生活が送れるよう、子どもや若者、障がいのある人の自立や社会参加のために必要なサポートを行います。

また、高齢や障がい等により、判断能力に不安のある人および不十分な状態にある人の望む生活と権利を擁護していくための取り組みを行います。

## 現状と課題



さまざまな家庭環境にある子どもや、疾病や障がい等でひきこもりの状態にある方への支援が求められています。



障がいのある人の特性が理解され、その人にあった働ける機会や職場を充実してほしいと望む声が多くあります。



判断能力に不安のある高齢者や障がいのある人への悪質な詐欺や権利・財産を侵害する事件も起きています。障がいのある人と親の世帯、認知症の人が増加する中で、地域ぐるみで権利擁護の取り組みを進めていく必要があります。

## 活動項目 19 子どもや若者、障がいのある人の自立・社会参加の支援

### 一人ひとりができること

- ①さまざまな家庭環境にある子どもや若者のことを気にかけてみましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①障がいのある人たちの余暇活動や職業体験の機会をつくりましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①自立生活のサポート  
・関係機関と連携し、疾病や障がい、長期にわたるひきこもりの経験等の理由で、就労や社会参加が難しい人たちの自立をサポートしていきます。
- ②子どもの学習支援や居場所づくりを行う団体への協力



一人ひとりができること

- ①一人ひとりの意思を尊重し、権利を守りましょう。
- ②福祉サービス利用援助事業や成年後見制度について理解を深めましょう。

地域で取り組みたいこと

- ①判断能力に不安のある人や心配な人がいたら関係機関に相談しましょう。



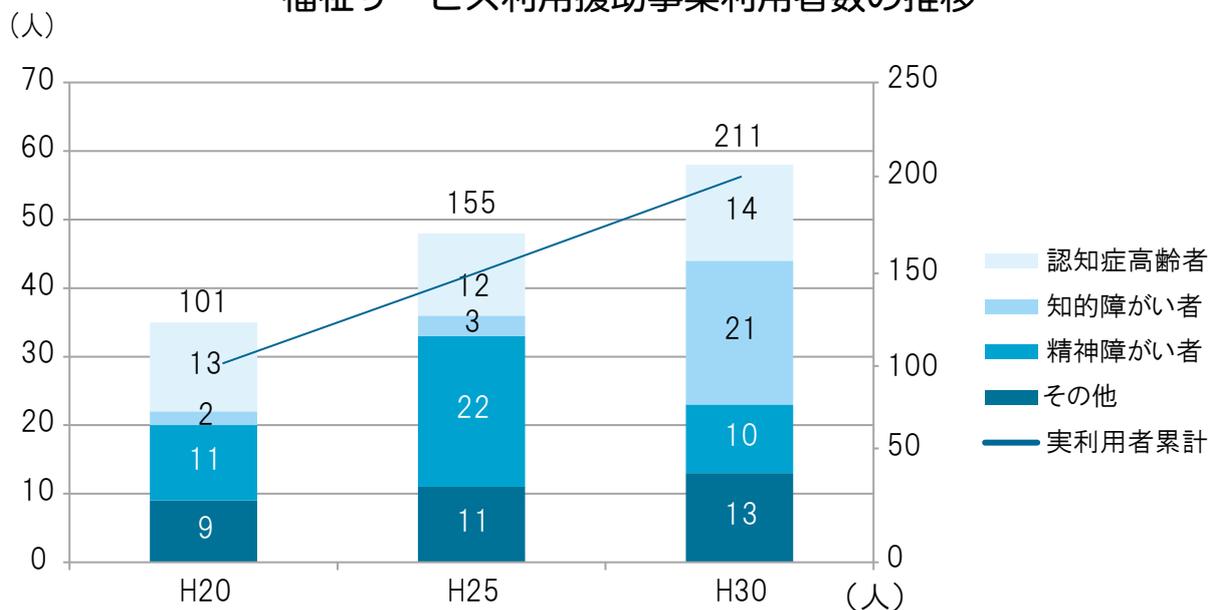
社会福祉協議会の取り組み

- ①権利擁護センターの充実
  - ・福祉サービス利用援助事業や成年後見制度の普及啓発を行い、相談を受けます。
  - ・判断能力の不十分な方の意思能力や生活状況に応じて、成年後見制度及び福祉サービス利用援助事業を活用し、適切な支援をしていきます。
- ②生きがいの場の創出や支援
  - ・認知症になっても、障がいがあっても、一人ひとりの意思が尊重され、生きがいのある生活が送れるよう支援していきます。

福祉サービス利用援助事業

判断能力に不安のある利用者と社会福祉協議会が契約し、福祉サービスの利用やそれにもなう日常的な金銭管理など支援する制度です。

福祉サービス利用援助事業利用者数の推移



資料：今治市社会福祉協議会 地域福祉課

# 活動目標 11 お互いを認め合い、誰もが生きやすい社会にしよう

## 活動項目 21 合理的配慮の推進

## 活動項目 22 外国人や性的マイノリティなど多様な生き方・文化の尊重

障がいの有無や国籍、性的マイノリティなどに関わらず、自分の人格や個性が尊重された多様な生き方をすることは、誰もがもつ当たり前の権利です。正しい知識を持ってお互いの理解を進めていくことで、誰もが暮らしやすい地域・社会を目指します。

### 現状と課題



今治市の統計によると、市内に住む外国人は年々増加しています。また、登録国籍も多様化しています。言葉や文化の違う中で、外国人住民への情報提供やサポートを充実させていくことが求められています。

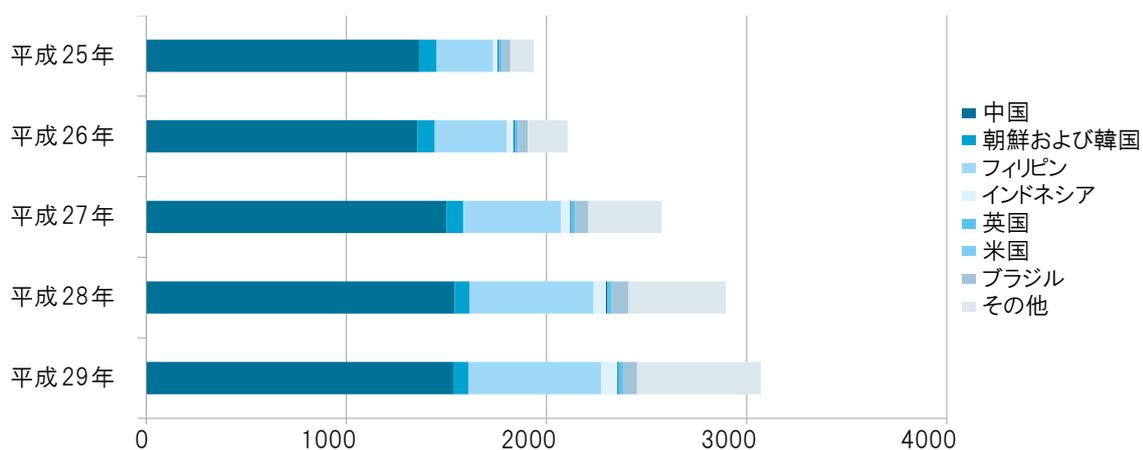


文化・認識の違いから生まれるトラブルも起きているのが現状です。広い視野を持って、お互いに理解し、ともに暮らしていくための学びやかかわりの機会を作っていく必要があります。



今後様々な国籍や文化、価値観、特性の相互理解につながる取り組みが必要と なってきます。

外国人登録国籍別人員



資料：今治市市民課

### 合理的配慮

関連：8ページ参照

合理的配慮は、障がいのある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること（事業者においては、対応に努めること）が求められるものです。その内容は、障がい特性やそれぞれの場面・状況に応じて異なります。（内閣府リーフレットより）

## 活動項目21 合理的配慮の推進

### 一人ひとりができること

- ①障がいに触れる機会や研修等に参加し、障がいや合理的配慮について学びましょう。
- ②障がいのある人が困っていたら積極的に声をかけ、自分ができるサポートをしましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ①障がいの有無に関わらず地域の活動へ参加しやすくなるよう配慮を行いましょ

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①教育機関や企業などと連携を図りながら、学校関係者や保護者、企業向けに学びの機会を作り、合理的配慮についての理解を深めていきます。
- ②社協内部や専門職の研修会を開催し、専門性を高めていきます。
- ③障がいのある人が合理的配慮によって社会参加できるきっかけづくりを進めていきます。

ちょっとした配慮で助かる人がいます。



視覚障がいのある方へのガイドヘルパー・ボランティア



聴覚障がいのある方との筆談

## 活動項目22 外国人や性的マイノリティなど多様な生き方・文化の尊重

### 一人ひとりができること

- ①地域とのかかわりの中で外国人ともコミュニケーションをとりましょう。
- ②性的マイノリティ(LGBTなど)に関する正しい知識を身につけましょう。



### 地域で取り組みたいこと

- ①外国人に日本の文化を押し付けず、お互いにそれぞれの文化を尊重し合いましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ①関係機関などと連携を図りながら、多文化共生プロジェクトにて外国人のニーズの把握や取り組みの調査を行います。
- ②社協内部や他機関との研修会を開催し、専門性を高めていきます。
- ③実際に関わることが増えてきている学校や企業などに対する研修を開催し、生活のしづらさや困りごと、思いを知り、対応の方法を考えることのできる機会をつくります。



# 活動目標 12 制度の狭間や深刻な地域の課題に対してチャレンジしよう

## 活動項目 23 深刻な地域課題に対する手立て

## 活動項目 24 孤立や複合的な課題を抱える人・家族への寄り添いサポート

今治市では地域が多岐にわたっており、地域ごとに様々な深刻な課題があります。一人や家族だけで多くの課題を抱え込んでしまったり、地域の中だけでは解決が難しい課題もでてきています。地域の深刻な課題に対して、地域全体で学び・考える場づくりを促進し、身近にできる事や新しい取り組みを模索します。

### 現状と課題



住民が感じている地域課題としては「空き家」「少子高齢化・人口減少」がともに約35%と高くなっており、地域の中だけでは解決が難しい課題が深刻になっているため、他地域の住民と協働していくことが必要となります。

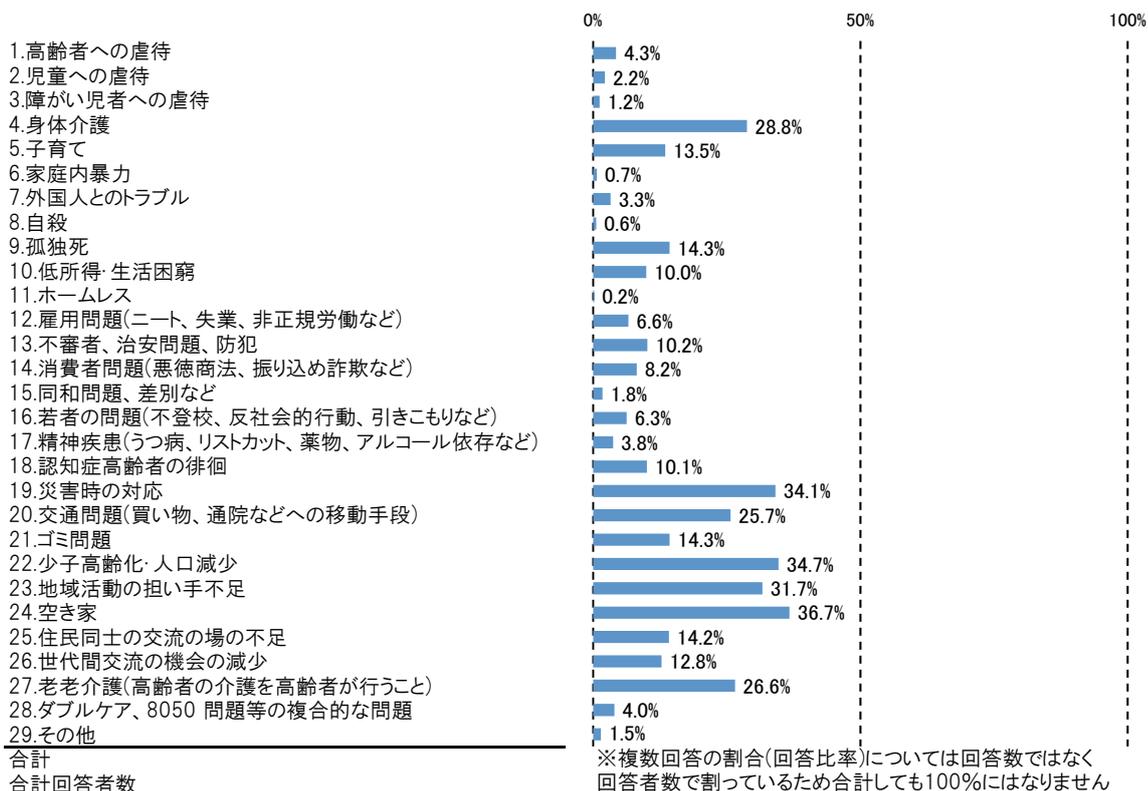


自殺やホームレス等は、地域の課題として感じている人が少なく、自分の住む地域の様々な課題に対して、目を向ける人や機会を増やしていくことが求められます。



全地域に共通する深刻な課題だけでなく、小地域単位で、地域課題は多様であるため、自分の住む地域に合った仕組みや対策が必要になっています。

### 住民が感じている地域課題



第3期地域福祉活動計画策定のためのアンケート調査

## 活動項目23 深刻な地域課題に対する手立て

### 一人ひとりができること

- ① 所属している団体や地域で集まる機会を通して、地域の課題に目を向けましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ① 地域の課題解決のヒントになりそうな地域のいいところを探していきましょう。
- ② 地域に合った取り組みをみんなで考える勉強会等に参加しましょう。



他地域の学生と協働した運動会  
(関前地区)

### 社会福祉協議会の取り組み

- ① 住民の暮らしに直結する深刻な地域課題に対する社会資源の開発をします。
- ② 深刻な地域課題に対する仕組みの検討を行い、市への政策提言を行います。

## 活動項目24 孤立や複合的な課題を抱える人・家族への寄り添いサポート

### 一人ひとりができること

- ① 近隣でお互いを気にかけて、ちょっとした挨拶を継続していきましょう。
- ② 周囲の人の様子の変化に気づいたときは、どんなに小さなことでも近くの民生児童委員や相談機関などに相談しましょう。

### 地域で取り組みたいこと

- ① 孤立や複合的な課題を抱える人や家族に対して、地域でどのような支援ができるか住民同士で考える場を設けましょう。

### 社会福祉協議会の取り組み

- ① 総合的な相談窓口体制を確立し、自立に向けた包括的な支援を行います。
- ② 各関係機関と協力し、生活が困窮している方へ必要な物資を届ける仕組みづくりに努めます。
- ③ 生活困窮者支援プロジェクトで事例を持ち寄り、地域とのつながりづくりを行います。



地域食堂 れんこん  
(鳥生地区)